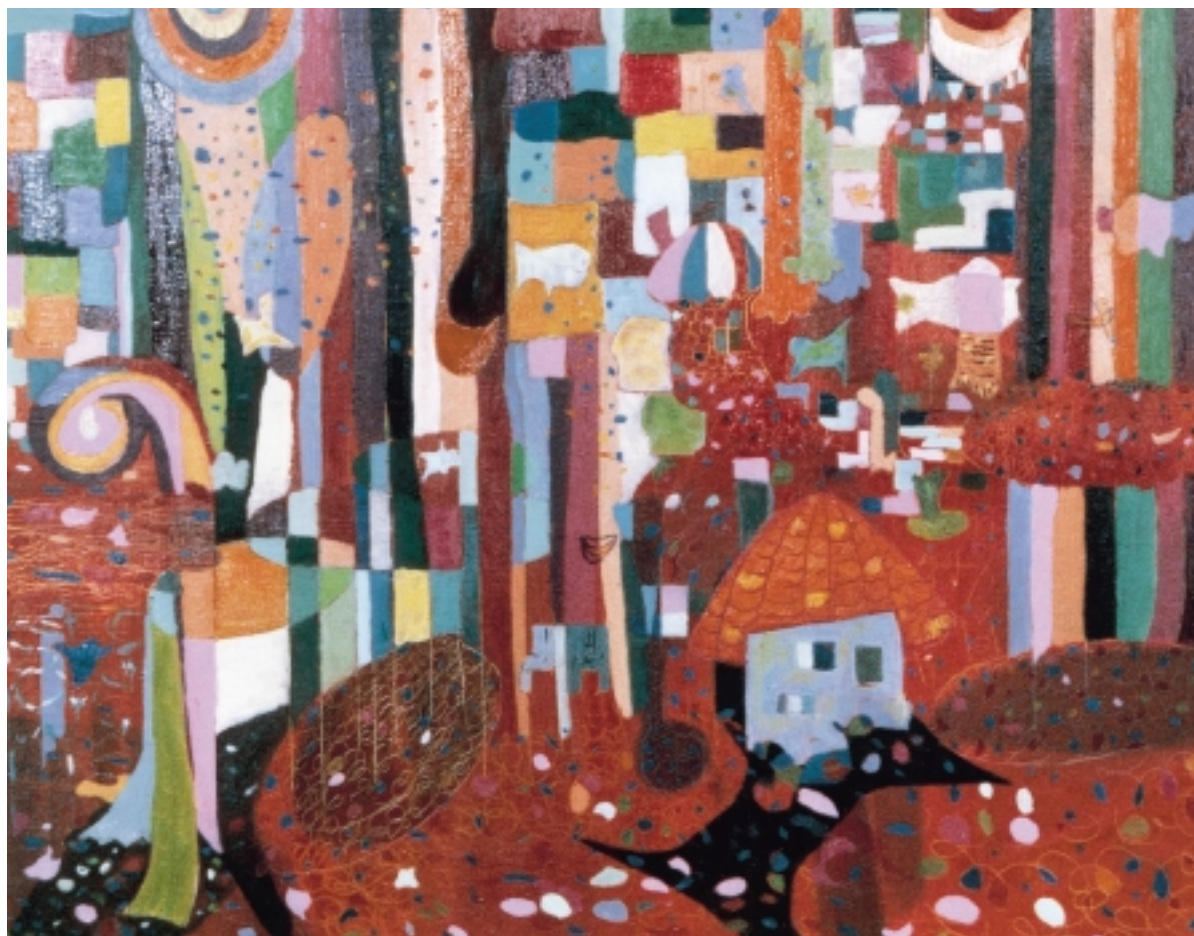


財団法人

日韓文化交流基金

NEWS



特集 助成事業

2000年度上半期助成対象事業
1999年度助成事業を振り返る

2000年度訪日・訪韓研究者決定

日韓教育比較調査

中学生・高校生の比較調査から

no.

13

2000

The Japan-Korea Cultural Foundation

森の歌 1995年 (F30号・油彩)

朴香淑 (パク ヒャンスク)

- 1968 韓国ソウル市生まれ
- 1996 個展「夢見る街」展 (多摩美術大学付属美術館)
- 1997 多摩美術大学卒業 (福沢一郎賞受賞)
- 1998 個展 (東京・フタバ画廊)、「若き画家たちからのメッセージ '98」(東京・すどう美術館、同美術館賞受賞)
- 1999 個展 (東京・すどう美術館) 多摩美術大学大学院修了 行動展出品 (奨励賞受賞)
- 2000 米国留学 (現在)

表紙作品を1年にわたって提供して下さった朴香淑さんから、連載を終えるにあたってメッセージをいただきました。

作家のこぼれ

幼い頃、画家になりたかった。その思いは、自分の中で大きくなった。強く、誠実に生きている世の中の人々が夢を思いだし、そして安らぎを感じる絵を描きたい。絵を描くことで、人々を応援できたらと思う。夢をなくしてしまいがちな今、様々な状況の中で、精いっぱい生きようとするそのすばらしい力を信じ、自分の世界にとどまらない同伴者でありたいと願う。

日韓文化交流基金NEWS

目次

- 2 巻頭エッセイ
日韓関係の応援団 福田恵介
- 3 特集 助成事業
2000年度上半期助成対象事業
1999年度助成事業を振り返る
- 6 学術文化研究者交流事業
2000年度訪日・訪韓研究者決定
- 8 委託調査事業
『日韓教育比較調査
中学生・高校生の比較調査から』
日韓高校生の大学進学意識 深谷昌志
- 9 文化エッセイ 第2回
八九年一月七日と八日の間 原 武史
- 10 日韓文化交流基金事業報告 / 図書センター情報

「これも良かった、あれも良かった」などとうれしうに話す妻の戦績を一通り聞き流していると、最後にこう言った。「韓国って、袋代がいるでしょ。でもね、私、払わなかったのよ」

またそんなことを、と思っただが次の言葉が飛び出した。「ほら、私、韓国語わからないじゃない。それで英語で店員と話したんだけど、最後に『袋代は百ウォンですよ』と言っただけで、『いいです。外国の方ですから私が払います』って言うてくれたんだよ。うれしかったわ」

「あ、まだそういうことしてくれる人がいたか」と思った。小銭と言ったら失礼だが、外国人や身近な人にはそのような代金をサービスタと言っただけで受け取らない店が以前にはよくあった。たかが百ウォンだが、そのサービスが懐かしく、ちょっとうれしかった。

妻をはじめとして日本から来る人を案内すると、戸惑うことの最初が、この袋だ。コンビニで水を買っても袋に入れてくれない。韓国では袋は買わなければいけないんですよ。と、少し申し訳なさそうに説明してしまっても、ほとんどの人は「そうですか、それはいいシステムですね」と言うてくれる。予想外だった。「そんなケチな」という言葉が返ってくるものと予想していたのだが、私の性格が悪いだけだったようだ。「韓国は進んですね」と好印象さえ持つてくれる。これも何だかうれしい。

「うれしいことばかりのようだが、韓国に対して好印象を持つて日本に帰ってくれると、私も本当につれい。誰でも、どこの国に対しても、実際に体験したうえの好印象を持つてくれれば、決してその国を悪く言わないものだ。あまりにも単純な思考だが、この「単純さ」も隣国との関係を考える際には重要ではないか。

「焼き肉食べておいしかった」「キムチもおいしかった」「よいモノが安く買えた」「韓国の人の親切がうれしかった」。飛行機の予約も難しいけど多くの日本人が観光客として来ているが、彼らがこういう印象を持つて日本に帰る、「楽しかった」「よかった」「うれしかった」という印象を持つてくれることが、これからの日韓関係の頼もしい味方になってくれるのではないかと、と密かに期待してしまっ。

九八年十月金大中大統領の訪日以来、政府レベルでの日韓関係は良好だ。この良好さを持続させるための政策ももちろん重要だろう。だが、これだけ多くの日本人が隣国を訪れ、隣国の心に触れる。もちろん楽しい体験ばかりではないだろうが、実際隣国を見た人は、自分の印象でその国を見るだろう。初めて訪れた妻をはじめ私の周囲の人たちは好印象を持つて日本に帰り、また「韓国に行きたい」「韓国関係のニュースをよく見るようになった」などと言ってくれる。このような人たちが増えれば、よほどのことがない限り、民間レベルでの日韓関係ははるかによくなるのではないかと私は樂觀している。

巻頭エッセイ 日韓関係の 応援団

福田恵介
編集者

ふくだ けいすけ
一九六八年生まれ。神戸市外国語大学外国語学部ロシア学科卒業。毎日新聞記者を経て、東洋経済新報社出版局勤務。現在、朝鮮日報・方一栄文化財団ジャーナリストフェローシップでソウル在住。

特集

助成事業

日韓文化交流基金は、助成事業を通して日韓の民間交流を支援しています。両国の民間交流は近年非常に活発化・多様化し、それに伴って基金助成事業も日韓交流の多様な場面に関わっています。

新たに2000年度上半期（4月～9月）には、20件の事業に対して助成を行うことが決定いたしました。1999年度には40件の事業に対して助成を行いました。

2000年度上半期助成対象事業

交流会 3件

事業名	申請団体	期間	場所
浜岡国際交流協会日韓交流	浜岡国際交流協会	2000/7/28-8/6	静岡県浜岡町
第4回日韓大学生デザインシンポジウム	東西大学デザイン学部	2000/7/30-8/4	長岡・長岡造形大学、東京、千葉・千葉大学
横浜市立大学韓国スタディーツアー および世明大学学生との交流	横浜市立大学国際文化学部	2000/9/12-9/19	ソウル、堤川・世明大学校

シンポジウム、国際会議、学術会議 3件

事業名	申請団体	期間	場所
2000年度「春季国際学術発表会」の 特別講演演海外理事招請	韓国日本文化学会	2000/4/29-4/30	天安・檀国大学校
日本思想史国際学術会議	韓国日本思想史学会	2000/5/12-5/14	清州・清州大学校
日韓交流セミナー「21世紀 日韓劇芸術の展望」	日本劇作家協会	2000/7/24-7/27	東京・世田谷パブリックシアター

草の根交流事業 8件

事業名	申請団体	期間	場所
第2回日韓ジュニアサッカーフェスティバル	日本青年会議所	2000/4/1-4/3	札幌、仙台、茨城、埼玉、横浜、新潟、静岡、大阪、神戸、大分
慶州さくらウォーク日韓学生交流会	日韓学生ボランティアの会	2000/4/5-4/10	釜山、慶州
韓国の作家との友好交流・2000	アンニョン2000 韓国小説をジャコールする会	2000/4/14-4/17	ソウル
第5回日韓学生合同ボランティア	国際ボランティア学生協会	2000/8/1-8/10	京畿道楊平郡
「平和の文化国際年」日韓文化交流事業	幸富秋日韓交流実行委員会	2000/8/3-8/7	大阪府和泉市
湯河原町・韓国忠州市親善交流試合	湯河原サッカースポーツ少年団	2000/8/18-8/21	忠州
第2回比企・安城親善サッカー大会	東松山市サッカー協会	2000/8/26-8/29	東松山市
ICAS日本文化紹介プログラム	ICAS国際都市仙台を支える 市民の会	2000/10/9-10/25	光州

文化交流事業 6件

事業名	申請団体	期間	場所
日本を知るための日本舞踊ワークショップ	玄琴の会	2000/4-2001/3	ソウル・日本大使館公報文化院
第2回日韓青年作家美術交流会	日韓青年作家美術交流会	2000/7/3-7/12	東京・韓国文化院
一両洋の眼展 - 21世紀の絵画	両洋の眼委員会	2000/8/1-8/13	ソウル・大韓毎日申報社国際会議場、ソウルギャラリー
小平青少年吹奏楽団創立15周年記念韓国訪問演奏	小平青少年吹奏楽団	2000/8/3-8/6	慶州ナザレ園、龍仁エバーランドほか
イクサン世界児童青少年舞台芸術フェスティバル	APPN-KOREA	2000/8/5-8/13	益山・圓光大学校ほか
The 4th International Dance Festival 2000 at Theater-X	社団法人ウンヌンドル	2000/8/29-9/6	東京・Theater-X

交流会

交流会は、大学生、教職員間の交流研修を目的とする事業で、1999年度は10件の事業に対して助成しました。各事業において、ホームステイ、学校訪問など、さまざまなプログラムが準備され、活発な交流が進められています。近年は、具体的なテーマを掲げてフィールドワーク、討論会を行うといった、参加者がより能動的に考え、行動するスタイルの事業が増える傾向が見られます。



梨花女子大学でのキャンパスツアー（ソウル）

日韓五大学学生会議

日本から東京大学・一橋大学・お茶の水女子大学、韓国からソウル大学校・梨花女子大学校の5つの大学の学生が、「日韓漁業協定」や「若者文化」「知的財産権」など日韓をめぐるさまざまな問題について討論を行った。

事業名	団体名	開催地	期間
第15回日韓青少年交流訪日団	(社)日韓経済協会	東京、横浜、京都	1999/7/26-1999/8/2
第46回国際学生会議	日本国際学生協会	東京、京都、大阪、神戸、岡山、九州	1999/7/30-1999/8/10
第5回日韓五大学学生会議99ソウル大会	日韓五大学学生会議	ソウル大学校、梨花女子大学校など	1999/8/2-1999/8/12
第15回日韓学生フォーラム	日韓学生フォーラム	対馬、福岡、東京	1999/8/5-1999/8/16
日韓環境ギャザリング	全国青年環境連盟	国立オリンピック記念青少年総合センター	1999/8/15-1999/8/19
第15次訪韓団	創価大学ハングル文化研究会	ソウル、公州	1999/8/20-1999/8/28
日韓親善青少年交流会	富山県日韓親善協会	富山県	1999/11/3-1999/11/8
韓国浦項工科大学校学生訪日研修	浦項工科大学校	東京・拓殖大学、東京大学、京都、つくば・筑波大学	2000/1/3-2000/1/13
韓日新世代交流「第3回韓日新世代フォーラム」	釜山韓日文化交流協会	京都・京都市国際交流会館、奈良、大阪	2000/2/13-2000/2/22
日韓学生交流の旅	日韓市民ネットワーク・なごや	ソウル、公州、光州	2000/2/22-2000/2/27

シンポジウム、国際会議、学術会議

日韓の各分野の専門家が中心となり、日韓両国の文化や日韓関係をはじめとする人文・社会等の分野のテーマを扱う会議を対象としています。1999年度には16件の助成を行いました。基金では、日韓という二国間の枠組みにとどまらず、アジアあるいは太平洋地域という、より広い視点から日韓の文化、社会等について考える会議に対しても積極的に助成を行っています。



中国・延辺でのシンポジウムの模様
(発表者 金允植(文学者))

東アジア文学シンポジウム (千年紀文学の会)

「東アジア文学における満州体験」というテーマの下、韓国、日本、在日、中国など東アジアの文学者が世界の同時代の中で直面している文学の課題を論じ合うことを通して、交流を促進し、相互の文化的理解を図る。

事業名	団体名	開催地	期間
日韓行政学会研究会	日韓行政学会	熊本県立大学	1999/5/22-1999/5/23
第2回国際比較文学会東アジア会議	日本比較文学会	メルバルク福岡	1999/6/18-1999/6/20
国際フォーラム 「テレビの伝える外国イメージ」	ITFP-JAPAN	千代田放送会館	1999/7/3
第3回 日本-在日-韓国 コースフォーラム	ユースフォーラム実行委員会	関西各都市、東京	1999/8/1-1999/8/6
第3回東アジア文学シンポジウム	千年紀文学の会	中国延辺自治州延吉	1999/8/6-1999/8/10
1999年度日本語学会夏季国際学術大会	日本語学会	釜山・釜慶大学校	1999/8/27
第3回日韓少壮指導者会議	慶應義塾大学地域研究センター	日韓文化交流基金会議室	1999/9/3-1999/9/5
日韓国際政治学会合同シンポジウム	日本国際政治学会	中央大学	1999/9/11-1999/9/12
韓日政治学会の交流	韓国政治学会	東京	1999/10/1-1999/10/4
「21世紀における韓国の日本語研究」 国際学術発表会及びシンポジウム	韓国日本語学会	ソウル・東国大学校	1999/10/23
第2回アジア職人文化専門家会議	アジア民族造形文化研究所	ソウル・韓国文化財保護財団講堂	1999/10/23-1999/10/28
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 国際学術会議	東アジア日本語教育・日本文化研究学会	佐賀県唐津市立近代図書館	1999/10/29-1999/11/1
韓国日本文化学会秋季国際学術大会	韓国日本文化学会	大田・又松大学校	1999/10/30-1999/10/31
日韓シンポジウム 「城郭における版築技法の比較検討」	古代山城研究会日韓シンポジウム準備委員会	大阪府八尾市・文化会館、福岡県	1999/11/26-1999/12/1
第4回東アジア歴史教育シンポジウム	比較史・比較歴史教育研究会	明治大学	1999/12/11-1999/12/12
14th Pacific Conference on Linguistics, Information & Computation	日本論理文法研究会	上智大学	2000/2/16-2000/2/18

草の根交流事業

文化・スポーツ・教育などの各分野で地域交流や民間交流を目的として活動している団体が実施する事業のうち、日韓両国間の友好親善に寄与すると判断されるものを対象としています。1999年度は6件の助成を行いました。特に、障害者団体の交流や合同のボランティア活動などに表れているように、日韓交流のすそ野が広がり、交流事業の内容が多様化しています。



ソウル・大学路ライブ劇場にて、11月26日

ライブ風景、11月27日

「サルサ・ガムテープ」の韓国交流親善ツアー

障害者によって構成されるバンド「サルサ・ガムテープ」が韓国を訪問し、韓国の障害者らと音楽を通じて交流を図った。写真は韓国の障害者によるサムルノリ演奏グループ「サムルチヨンドン」との合同コンサート。



事業名	団体名	開催地	期間
第5回日韓障害者国際交流大会	差別とたたかう共同体全国連合	大阪、滋賀	1999/7/22-1999/7/26
第4回日韓学生合同ボランティア	国際ボランティア学生協会	京畿道楊平郡	1999/8/1-1999/8/10
日韓親善サイクリング大会	静岡県サイクリング協会	釜山-ソウル間	1999/8/9-1999/8/13
ICAS日本文化紹介プログラム	ICAS国際都市仙台を支える市民の会	光州・湖南大学校	1999/10/3-1999/10/9
日韓婦人文化交流	横浜国際婦人文化交流会	ソウル・日本大使館公報文化院	1999/10/13-1999/10/15
障害者バンド「サルサ・ガムテープ」の韓国交流親善ツアー	サルサ・ガムテープ後援会	ソウル	1999/11/23-1999/11/28

文化交流事業

日韓共同の文化・芸術公演、展示など、文化・芸術活動を通して日韓間の共同作業や交流を目的とする各種の事業を対象としています。一昨年の金大中大統領の日本文化開放宣言を受け、文化交流事業はより盛んになっています。日本の伝統芸能を韓国に紹介する事業のほか、日本語による演劇の公演やワークショップ、日本映画の上映など、日韓間ではこれまでに見られなかった新しい事業を含め、1999年度には8件に対して助成を行いました。

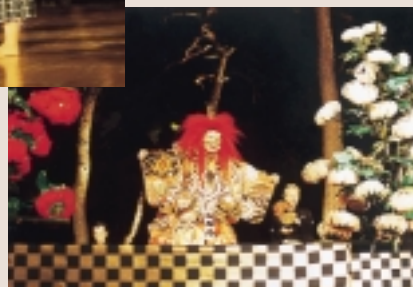


演目の解説。左から観世暁夫氏、笠井賢一氏（鏗仙会）、通訳者。安東市河回マウル、9月26日

能「石橋」。シテ（観世暁夫）安東市河回マウル、9月26日

「能」「狂言」の韓国公演（21世紀日韓文化交流委員会）

共通点を有しながらも、まったく異なる発展を遂げた能・狂言と、韓国河回（ハハ）の仮面劇の出合いを通じ、互いの演技と技術に関するワークショップ、シンポジウムを行った。



事業名	団体名	開催地	期間
大分市つかこうへい劇団韓国ワークショップ	大分市つかこうへい劇団	ソウル・シアターZERO	98年度からの継続事業
大分市つかこうへい劇団韓国公演	大分市つかこうへい劇団	ソウル・文芸会館大ホール	1999/4/14-1999/4/26
「ファンシーダンス」1990年以降の日本現代美術	アートソングジェ美術館	慶州・アートソングジェ美術館、ソウル・アートソングジェセンター	1999/7/2-1999/10/31
KOREA + JAALA韓国ソウル、木浦美術展	日本・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ美術家会議	ソウル・世宗会館、ソウル市立美術館	1999/9/5-1999/10/20
日本の伝統仮面劇「能」「狂言」の韓国公演	21世紀日韓文化交流委員会	ソウル、安東、全州	1999/9/24-1999/9/30
「日本舞踊」レクチャー、デモンストレーション	(財)日本舞踊振興財団	ソウル・芸術の殿堂、釜山・慶星大学校	1999/10/12-1999/10/14
第4回釜山国際映画祭開催日本映画関係者招聘	釜山国際映画祭組織委員会	釜山	1999/10/14-1999/10/23
青年団韓国公演『東京ノート』	アゴラ企画・青年団	ソウル・芸術の殿堂	1999/10/18-1999/10/26

2000年度訪日・訪韓研究者決定

日韓文化交流基金の2000年度の訪日・訪韓研究者（フェローシップ）が決定いたしました。
 基金フェローシップは一般分野（人文社会科学分野の日本研究。韓国の学者・研究者対象）と歴史分野（日韓の歴史、日韓関係史、朝鮮半島に関する研究。日韓等の学者・研究者対象）の2種です。
 2000年度訪日研究フェローシップの総応募数は89名（一般58名、歴史31名）で、そのうち34名（一般19名、歴史15名）が採用されました。一方、歴史分野の日本からの訪韓研究フェローシップは、5名が採用されました。

一般分野（氏名가나다順）

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
姜明求	ソウル大学校社会科学大学 言論情報学科教授	韓日両国における消費文化の比較研究 - 1940～70年代を中心として - (東京大学社会情報研究所)	2000/6/10-2000/9/10
康仁徳	極東問題研究所常任研究員	南北韓対話の実際と教訓 - 東アジアの安全保障に及ぼす影響を中心に (聖学院大学総合研究所)	2000/4/1-2001/3/31
金鍾賛	SBQ ソウル放送 制作委員	デジタル放送時代の日・韓放送番組の交流 (上智大学文学部新聞学科)	2000/4/1-2001/3/31
金采洙	高麗大学校文科大学 日語日文学科教授	現代日本人の文化意識と文芸意識に対する考察 (東京大学大学院総合文化研究科)	2000/6/1-2001/2/28
金判錫	延世大学校(原州)経法大学 行政学科助教授	A Comparative Study of Civil Service Reform in Japan and Korea (早稲田大学大学院政治学研究科)	2000/6/5-2000/9/4
朴明欽	釜山発展研究院先任研究委員	日本の地方分権についての研究 (同志社大学法学部)	2000/4/1-2001/3/31
徐賢珍	済州大学校経商大会計学科 副教授	日本の管理会計の特性と発展的課題 (早稲田大学大学院商学研究科)	2001/1/20-2002/1/19
李愚寛	漢城大学校経商学部経済学 専攻助教授	Firm-specific Risks, Market Structure, Financial Market Deregulation and the Corporate Governance in Japan (早稲田大学大学院社会科学研究科)	2000/4/1-2001/3/30
李元長	湖南大学校社会科学大学 社会科学部行政学専攻教授	中央政府の地方政府に対する統制のあり方 (東京大学大学院法学政治学研究科)	2000/4/1-2001/3/31
李翼燮	延世大学校社会科学大学 社会福祉学科副教授	Research on Social Integration of Persons with Disabilities toward the Comparability of Disability Integration Index (日本社会事業大学付属社会事業研究所)	2000/7/1-2001/6/30
李鍾殷	国民大学校社会科学大学 政治外交学科教授	日本における個人という概念の受容過程に関する研究 (法政大学法学部政治学科)	2000/4/1-2001/3/31
李忠烈	慶星大学校東洋語文学部 日語日文学専攻副教授	永井荷風研究 - 『つゆのあとさき』を中心に - (梅光女学院大学)	2000/4/1-2000/8/31
任榮哲	中央大学校文科大学 日語日文学科副教授	韓国人と日本人のコミュニケーション・ギャップに関する実証的研究 (東京大学大学院総合文化研究科)	2000/9/1-2001/8/31
林鍾守	徐羅伐大学観光日語通訳科 副教授	アスペクト動詞と自他動詞との相関性 (国立国語研究所)	2001/3/1-2002/2/28
鄭起永	釜山外国語大学校東洋語大学 日本語科助教授	日本語CD-ROM教材評価に関する研究 (東京学芸大学教育学部日本語教育研究室)	2000/8/1-2001/7/31
趙誠倫	済州大学校人文社会科学大学 教授	日本の新宗教のアジア布教と民族問題 (天理大学教養部)	2000/12/20-2001/6/30
崔蓮姫	釜慶大学校人文社会科学大学 日語日文学科助教授	中原中也と尹東柱を中心とした1920・30年代日韓の詩の比較 (九州大学大学院比較社会文化研究科)	2000/4/1-2001/2/20
崔恩鳳	江原大学校社会科学大学 政治言論学部副教授	成長型経済体制の変化と市民社会の登場 - 現代日本政治社会変貌の動態的分析 - (筑波大学社会科学系)	2000/9/1-2001/8/31
崔丁云	ソウル大学校社会科学大学 外交学科副教授	Importing love stories from the West to Japan and Korea (早稲田大学大学院政治学研究科)	2000/4/1-2000/9/30

学術文化研究者交流事業

歴史分野

訪日研究 (氏名가나다順)

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
金光林	韓国芸術総合学校演劇院 劇作科教授	Lives of the Last Prince of Chosun Dynasty and His Ladies -Writing Play in Japanese and Korean (岸田理生カンパニー)	2000/12/15-2001/4/14
金大植	東西大学校外国語学部 日語日文学専攻助教授	広池千九郎の思想研究 (國學院大学日本文化研究所)	2000/7/1-2001/6/30
金永壽	ソウル大学校韓国政治研究所 研究員	日本宋学と韓国性理学導入期の精神的・政治的問題意識と Dilemmaに関する比較研究 (東京大学大学院法学政治学研究所)	2000/8/10-2001/8/9
金榮哲	漢陽大学校(安山)文科大学 外国語文学部日語日文学専攻 副教授	日本文芸に見る美意識の史的研究 (関西大学)	2000/9/1-2001/8/31
金昌鉉	江原大学校人文大学 国語国文学科非常勤講師	韓日小説形成過程の文化史的背景の比較 (東京大学大学院総合文化研究科)	2000/8/1-2001/7/31
金忠永	高麗大学校文科大学 日語日文学科副教授	世阿弥の修羅能に関する研究 (筑波大学文芸・言語学系)	2000/8/1-2001/7/31
朴己煥	浦項工科大学校人文社会学部 専任講師	韓国人の日本留学と帰国後の活動について - 1881年 ~ 1945年 - (大阪大学大学院文学研究科)	2000/4/1-2001/3/31
裒貞烈	韓南大学校文科大学英日語 文学部日語日文学科助教授	日本古代文芸史の研究 - 物語文学を中心に - (大阪市立大学文学部)	2000/4/1-2001/3/31
尙基淑	韓瑞大学校語文系列 中国語学科副教授	日本・中国・韓国の小説に見える民俗の異同に関する研究 (広島女子大学国際文化学部)	2000/4/1-2001/3/31
吳斗煥	仁荷大学校経商大学 経済通商学部教授	植民地期における朝鮮経済の展開と朝鮮銀行の役割 (明治大学文学部)	2000/4/1-2001/2/28
禹濟昌	University of Oxford, St. Antony's College	Japanese Banking in East Asia during 1910-1945 (東京大学東洋文化研究所)	2000/4/1-2001/2/28
李根雨	釜慶大学校人文社会科学大学 史学科助教授	韓日の律令制の受容とその展開 (京都大学文学部日本史研究室)	2000/4/1-2001/3/31
崔京國	明知大学校人文大学 日語日文科助教授	絵画資料による歌舞伎の図像研究 (東京大学大学院総合文化研究科)	2000/6/1-2000/8/31
黃彩金	国立現代美術館油画修復担当	日本近代油絵の修復技術研究 (東京芸術大学大学院美術研究科)	2000/9/1-2001/2/28
ジョエル・ スティーブン・ ウィット	ブルッキングス研究所 客員研究員	日米韓3国と北朝鮮との関係史研究 (静岡県立大学国際関係学部)	2000/4/17-2000/7/16

訪韓研究 (氏名五十音順)

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
馬越徹	名古屋大学教育学部教授	韓国の社会変動と教育改革に関する研究 (ソウル大学校師範大学)	2000/4/1-2001/3/31
絹川一徳	大阪市文化財協会調査部 調査課調査員	日本列島及び朝鮮半島における中期 - 後期旧石器時代の移行に関する比較 (漢陽大学校)	2000/6/1-2001/5/31
坂井俊樹	東京学芸大学教育学部教授	解放後韓国の歴史教育の推移と日本認識 (ソウル市立大学校文理大学国史学科)	2000/9/1-2001/2/28
仲村修	関西大学非常勤講師	朝鮮少年運動と児童文学 (韓国児童文学人協会)	2000/7/1-2000/9/30
道下成徳	防衛研究所助手	朝鮮半島における武力行使と外交政策 1953-1999年 (慶南大学校極東問題研究所)	2000/11/1-2001/10/31

* 基金フェローの研究報告は、『学術研究者論文集』として編集・刊行しています。基金図書センターで閲覧可能です。

委託調査事業

日韓教育比較調査

中学生・高校生の比較調査から

深谷昌志

東京成徳短期大学教授

日韓文化交流基金では、深谷昌志・東京成徳短期大学教授を代表とする調査研究グループに、日韓の中高生の意識調査を委託し、その結果を『日韓教育比較調査 中学生・高校生の比較調査から』として報告書にまとめました。

本調査委託の目的は、基金で実施している青少年・教員交流事業において、日韓両国の教育事情、特に生徒の意識を把握するための客観的なデータ資料を作成することです。

この報告書は、各都道府県、韓国との交流を行っている自治体の教育委員会、高校などに配布いたしました。また、二〇〇〇年度に基金の招聘・派遣事業に参加する教員の方々にも要約版（日本語・韓国語）を配布する予定です。



報告書
『日韓教育比較調査 中学生・高校生の比較調査から』日韓文化交流基金委託調査事業（2000.1）A4判、179頁（要約版38頁）

韓国の教育に接すると、日韓の文化がそこであるように、日本との同質性と異質性を感じる。日韓ともに教育熱心な高学歴社会として知られる。生徒たちも学歴取得に意欲をもやしている。しかし、進学意識に日韓の温度差が感じられる。そうした印象はともあれ、生徒の実際の意識はどうか。中高生を対象とした調査を実施してみた。

中学生は規範感覚を中心とした調査なので、ここでは、高校生の大学進学意識の結果を紹介しよう。日韓ともに進学校を調査対象としたので、難関大学志望者は日本四〇％、韓国四一％に達する。四年制大学進学希望も八七％と九〇％である。

両国とも進学校のデータだが、進学へのこだわりは、日韓に開きが認められる。韓国の場合、「一生懸命がんばったら望みの大学（難関大学）に入れそう」が八三％に達するが、日本は五三％にとどまる。「一浪しても進学」も七七％と六一％と、日韓に一六％の開きが認められる。

韓国の高校生はどうして進学先にこだわることができるのか。高校生の八〇％は、志望校に入学できれば「希望する仕事につける」とし、

「高い収入を手にできる」（六一％）と、学歴の有効性を高く評価している印象を受ける。それに対し、日本の高校生の反応は六八％と四九％である。日本の高校生が難関大

学を卒業したからといって、社会的な達成は望み薄と感じているのが分かる。

何とかして難関大学に入学したい。そう考えているので、韓国の高校生は意欲的で真摯な高校生活を送っている。一例をあげると、「授業にまじめに取り組んでいる」（五七％）、「宿題をやる」（六一％）、「努力型」（四七％）、「とても」「わりと」の割合（）である。それに対し、日本の高校生の数値は、それぞれ四六％、四五％、三九％である。

これ以上数値を紹介するのは避けるが、図式化した要約を試みるなら、「意欲的に受験に取り組んでいる韓国」と「学歴に疑問を感じ、シラケ味に受験する日本」である。正直に言って、どちらの高校生的の方が望ましいのかはむずかしい。韓国の場合、

調査概要

中学生

対象：韓国および日本の中学生
韓国 820名（ソウル、釜山）
日本 1782名（東京、秋田、静岡、島根）
調査時期：韓国 1999年3月～4月
日本 1998年2月～3月

調査方法

学校を通じた質問紙調査
内容：日常生活の様子、学校生活や友人関係、流行への意識と行動など

高校生

対象：韓国および日本の高校生
韓国 734名（ソウル市内の2校の1～3年生）
日本 4252名（全国を7ブロックに分け、それぞれの地域から大学進学率の高い1、2校を選んだ。2年生）
調査時期：韓国 1999年3月～4月
日本 1999年2月～3月

調査方法

学校を通じた質問紙調査
内容：学校生活への意識、自己評価、進路、大学進学意識、将来像など



ふかや まさし

東京成徳短大教授。東京教育大学大学院博士課程修了。放送大学教授や静岡大学教授を経て現職。教育学博士。教育社会学専攻。日本子ども社会学会会長。都青少年問題協議会専門部会長。主著に『親孝行の終焉』『学歴主義の系譜』『良妻賢母主義の教育』『無気力化する子どもたち』など多数。

眦を決して受験に臨んでも、望みをかなえられないのは一握りの青年であらう。受験に挫折した多くの若者がその後どういう人生を送るのが気にかかる。それに対し、日本の高校生が、学歴に疑問を感じるのはい。しかし、シラケて、マイペースの生活を送っている感じがする。それだけに、若者らしく何かに挑戦するような意欲的な高校生活を送って欲しい気持ちがする。

八九年一月七日 と八日の間

原 武史

明治学院大学助教授

り、皇居前広場で泣き崩れながら土下座する日本人の姿であった。

それは私に、日本で見ていたならば決して感じなかったであろう強い違和感をもたらした。テレビ画面を通してしか状況がつかめなかったこともあり、まるで日本全体が、甲旗と土下座する人々で埋めつくされてしまったかのような錯覚を抱いたのだ。

翌日の昼ごろ、私は旅館を出て釜山駅まで歩き、国鉄に乗ってソウルに向かうことにした。ソウル行の急行「ムグンファ」に乗ると、隣に座っていた韓国人が新聞で包んでいた弁当を取り出し、美味しそうにキムパブ（のり巻き）を食へ始めた。見ると、その新聞は七日付の『東亜日報』（夕刊）であった。弁当の包装紙と化した新聞の一面に、「日王ヒロヒト死亡」という見出しがあるのがわかった。

この見出しもやはり、トップではなかった。だがそれは私にとって、三重の意味で衝撃的だった。第一に、天皇を「日王」としていることが、第二に、天皇の御名である「ヒロヒト」をそのまま用いていることが、第三に、皇室用語の「崩御」ではなく、ただ「死亡」としていることが、彼我の天皇に対する見方の違いを端的に物語っていたからである。

私の驚きをよそに、隣の韓国人はもつそんな記事には見向きもしなかった。役割を終えた新聞はくしゃくしゃにされ、無造作に捨てられた。いつしか車内では、あちこちで花札に興じる人達の熱い声が響きわたるようになっていた。

こうして韓国では、一月七日も一月八日も、ただ平穩無事のうちに過ぎた。天皇が「崩御」したなどというのは、どこか「対岸の火事」を見ているかのよう

な趣があった。ヒロヒトという日本の国王が死亡したただそれだけのことだ、という一見醒めた反応は、テレビ画面に映し出された日本の光景とあまりに対照的であり、不気味にすら思われた。

私が釜山駅で買ったソウル行の切符には、「1・8」の日付が印刷されていた。そうか、韓国では日付はすべて西暦で表記するのだなと私は合点した。日本の切符にはどう表記されているのだろう、あわててすべての切符を「1・1・1・8」に印刷し直しているのだろうか、などと考えたりもした。

一月七日と八日の間に引かれた断絶は、まさに日本に住む日本人だけが実感できるものであることを、このとき私は思い知らされた。二週間後に釜山に戻り、閑釜フェリーに乗ると、間もなく日本のテレビが放映された。「平成元年はどいつ一年になるか」という特集番組をやっていた。しだいに私は、半ば忘れかけていた日本のなかの時間の感覚を取り戻すようになっていった。



はら たけし

一九六二年生まれ。早稲田大学政経学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究所博士課程中退。国会図書館職員、日本経済新聞記者、東京大学社会科学研究所助手、山梨学院大学助教授などを経て、二〇〇〇年四月から現職。専門は日本政治思想史。著書に『直訴と王権』（韓国語版も刊行）『出雲』という思想』『民都』大阪対「帝都」東京』など。

一九八九年一月七日といえば、日本では昭和天皇が「崩御」した日として記憶されているはずだ。しかしこの日、私は日本にいなかった。新聞社を辞め、大学院に入学することが決まっていた私は、入学前の休暇を利用して、韓国の釜山に出掛けていたのである。第一報は自宅にかけた国際電話で知った。夜、旅館に帰り、テレビを点けると、KBSの二ニュースが始まった。トップは国内の大学入試に関するものだった。これにはかなり驚いた。韓国にとっても決して無関係ではないはずの隣国の大ニュースが、まず第一に報道されるとばかり思い込んでいたからである。二番目によつやく天皇の死去が伝えられたが、事実関係を淡々と報道するだけで、時間も思ったより短かった。アナウンサーの声とともに映し出されたのは、黒いリボンを付けた日の丸の立ち並ぶ銀座通りであ

日韓文化交流基金事業報告

日韓文化交流会議

日韓文化交流会議は、一月十四日にソウルで第2回合同運営委員会を開催しました。今回の会議では、昨年九月の全体会議での合意事項に関する双方の検討状況が報告されることにも、日韓文化交流会議を両国の文化交流に関する基本的な提言・アピールの場とするという基本方針が再確認されました。このため、当会議において今後の両国文化交流の礎となる「日韓文化交流のための提言」を採択することで合意し、双方の委員の意見を集めながら作成の準備を進めていくことになりました。この提言は来年韓国で開催される予定の第3回全体会議で発表される予定です。

また、韓国側副座長の崔相龍高麗大学校亜細亜問題研究所所長が、駐日大使に任命されたため、今回の会議が最後の参加となりました。

合同運営委員会参加者

日本側	
三浦朱門	座長
平山郁夫	副座長
小此木政夫	副座長
熊谷直博	事務局長
韓国側	
池明観	座長
金容雲	副座長
崔相龍	副座長
徐淵昊	事務局長

1 ~ 3月

韓国図書翻訳出版事業

「韓国の学術と文化」シリーズ新刊

以下の書目が韓国図書翻訳出版事業の一環として法政大学出版社から刊行されました。李泰鎮著、六反田豊訳『朝鮮王朝社会と儒教』（原題『朝鮮儒教社会史論』、一九八九年刊行、知識産業社）。

本書は、高麗末期に中国から受容された新儒学（性理学）が、朝鮮王朝時代の社会のあり方に与えた影響を考察し、新儒学の果たした役割を再評価しようとするものです。



日韓地域間交流促進のためのセミナー

二月二十一、二十二日に「日韓地域間交流促進のためのセミナー」が開催されました。今回のセミナーは、韓国との姉妹都市交流を行っている全国の自治体の関係者が集まり、姉妹都市間の交流の現状や、地域での韓国理解・交流の取り組みについて意見交換を行いました。セミナーでは片山善博鳥取県知事と幸田雅治自治省国際室長より日韓交流の現状と自治体間協力について基調講演をいただき、さらに先進的な取り組みをしている自治体から事例報告が行われ、議論を深めました。

(詳細は次号)

訪日団

団体名	計	男	女	期間
釜山日本語弁論大会入賞者等	20	4	16	2000/1/11 1/20
訪日研修団				
韓国高校生訪日研修団	20	9	11	2000/1/19 1/26

訪韓団

団体名	計	男	女	期間
日本大学生訪韓研修団(3)	20	8	12	2000/2/29 3/9
日本大学生訪韓研修団(4)	20	9	11	2000/3/14 3/23

報告書

この期間に、以下の事業の報告書が完成しました。各事業の報告書は、図書センターの「基金事業報告書」コーナーに開架され、閲覧が可能です。

日本大学生訪韓研修団報告書 第一陣
(九九年十一月二日 十一日実施)、第二陣



(九九年十一月十六日 二十五日実施)

第2回日韓青少年交流ネットワークフォーラム報告書(九九年十月二十九日 十一月三日実施)

日韓教育比較調査 中学生・高校生の比較調査から (詳細は八ページを参照)

訪日学術研究者論文集

歴史 第三巻(九八年四月 九九年三月)

アカデミック 第六巻(九八年四月 九九年三月)

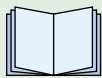
第12回日韓・韓日合同学術会議「世界の東アジア文化」(九九年十一月十二日 十四日) 記録

韓日文化交流基金訪日団

当基金とカウンターパートの関係にある韓日文化交流基金の第13次文化視察団が、1月20日から1月25日までの日程で訪日し、歴史的遺跡や文化施設の視察を行いました。1月24日には東京で日韓文化交流基金役員との懇談を行いました。

参加者名簿

李相禹 韓日文化交流基金理事長
李東馥 国会議員
鄭鍾旭 亜洲大学校碩座(客員)教授・国防委員会幹事委員
全相仁 翰林大学校社会学科副教授
李奎榮 西江大学校国際大学院助教授
朴愛敬 声楽家・Life and Dream Singers 企画委員
黄珠里 西洋画家
金熙淑 フルート奏者・ソウル大学校音楽大学講師
孫櫻美 朝鮮日報国際部記者
金秀雄 韓日文化交流基金事務局長



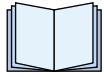
図書センター情報

図書センターでは、韓国のCD-ROMの閲覧を開始いたしました。貴重なもののため、館内での閲覧のみとなります。また、図書センターにはCD-ROM検索用のパソコンがありませんので、現在閲覧が可能なパソコンを持ち込める方のみ閲覧を許可いたします。詳しくは図書センターまでお問い合わせ下さい。

現在センターで所蔵し、閲覧が可能な韓国のCD-ROMは以下のタイトルです。



韓国語タイトル名	日本語タイトル名	制作者	対応OS
増補版 CD-ROM國譯朝鮮王朝實錄		서울시스템	日本語 / 英語Windows3.1、95
CD-ROM 高宗・純宗實錄		서울시스템	日本語 / 英語Windows3.1、95
국립민속박물관 : 한국의 민속	国立民俗博物館 : 韓国の民俗	국립민속박물관 / 서울시스템	日本語 / 英語Windows3.1、95
한국의 고궁	韓国の古宮	Infomercial Consulting	Windows 95/98
한국의 이미지(고궁)	韓国のイメージ(古宮)	Infomercial Consulting	Windows 95/98
한국의 이미지(사찰)	韓国のイメージ(お寺)	Infomercial Consulting	Windows 95/98



図書センター情報

逐次刊行物の受け入れ状況 - 韓国の雑誌

誌名	発行者	刊行頻度	所蔵号数
경제와사회 = ECONOMY AND SOCIETY	한울	季刊	35号(1997秋号)~
동향과 전망	박영률출판사	季刊	35号(1997秋号)~
월간 말	월간 말	月刊	1995.8・1996.10~
문학과 사회	문학과지성사	季刊	39号(1997秋号)~
문헌과해석	문헌과해석사	季刊	1号(1997秋号)~
샘이깊은물	뿌리깊은나무	月刊	131号(1995.10)~
시사저널 = WEEKLY NEWS MAGAZINE	독립신문사	週刊	305号(1995.8.31)・309~310号(1995.9.28~10.5)・312~313号(1995.10.19~10.26)・333号(1996.3.14)・336号(1996.4.4)・339号(1996.4.25)・360~411号(1996.9.19~1997.9.11)・416~426号(1997.10.16~12.25)・428号(1998.1.8)~
CITY LIFE = 시티라이프	매일경제신문사	週刊	251号(1997.10.2)~
新東亞	東亞日報社	月刊	372号(1990.9)・425号(1995.2)・445~446号(1996.10~11)・449~472号(1997.2~1999.1)・474号(1999.3)~
씨네21	한겨레신문사	週刊	36号(1996.1.16)~
Asian friend	釜山韓日文化交流協會	年刊	1~5号(1989.12~1993.11)・7~10号(1995.11~1998.11)
ECONOMIST	중앙일보 이코노미스트	週刊	406~412号(1997.10.7~11.18)・414号(1997.12.2)~
日本語ジャーナル = 월간일본어저널	알크 다락원	月刊	1998.12~
月刊 朝鮮	朝鮮日報社	月刊	1990.11~1992.4・1992.6~1995.7・1995.9~
주간조선 = WEEKLY.CHOSUN.COM	朝鮮日報社	週刊	1370号(1995.9.7)・1374~1540号(1995.10.12~1999.2.11)・1542号(1999.3.4)~
창작과비평 = Creation&Criticism	창작과비평사	季刊	91号(1996春号)~
Culture Japan	일본어뱅크	月刊	25号(1999.1)~
한겨레21	한겨레신문사	週刊	75号(1997.9.7)・78号(1995.10.5)・81号(1995.10.26)・87号(1995.12.7)・94号(1996.2.1)・161~201号(1997.6.12~1998.4.2)・203号(1998.4.16)~
환경과생명	환경과생명사	季刊	15号(1998春号)~
한국인	사회발전연구소	月刊	1995.10~1997.1・1997.3~2000.1
노래마당	ASSA 멀티미디어 교육 정보 센터	月刊	1996.1~12
文學思想 = THE LITERATURE & THOUGHT	문학사상사	月刊	243~254号(1993.1~12)
映画	映画振興公社	隔月刊 および月刊	7号(1975.8)・24~133号(1977.1~1990.11)・135~145号(1991.3~1992.11)
한국의미	한국의미	月刊	42~52号(1996.1~1997.2)

この欄の雑誌については現在新号の受け入れはしていません。

基金ホームページURL

<http://www.asc-net.or.jp/jkcf>

ホームページ E-mail: jkcf@asc-net.or.jp

図書センター E-mail: lib1jkcf@oak.ocn.ne.jp

発行 (財)日韓文化交流基金
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号
虎ノ門ワイコービル3F
電話 03-5472-4323 FAX 03-5472-4326
発行日 2000年3月30日